

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年10月27日
タイトル	ぜんぶ手で刈ったよ！part 2
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年10月14日（水）福山市立駅家西小学校5年生64名が、駅家西学区内の町内連合会会長をはじめ地域の方の協力で、水土里ネット福山の組合員の岡田国彦さんのほ場約500㎡で稲刈りを体験しました。

5年生全員で、5月の籾蒔き、育苗、6月の田植え、毎日の登下校の時など稲の成育を見守り、150日目に稲刈りをすることになりました。

Part 1に続いて、駅家西小学校5年生から稲刈り体験当日の日記が寄せられましたので、part 2をレポートします。

### — 子ども達の日記 —

今日、大変難しかったイネ刈りをしました。かまを使ったので、とても気を使わないと危なかったです。もみまきをし、こんなにも実を大きくして生長しているのを見て、米作りが大変ということが社会科の学習とつながり深まりました。

そして、私たち以上にイネのお世話をしてくださった地域の方に感謝です。イネ刈り体験は大変だったけど、とても楽しい経験をさせていただきました。

伊藤 咲夢

イネ刈りの前は、内心、そこまで大変じゃないだろうと思っていました。ですが、イネを刈るのも、刈ったイネを束ねるのも上手いきませんでした。

ぼくは、いつも機械での作業ばかり見ていたので、早くて簡単だと思っていました。しかし、手作業で全て試みて、米30つぶくらいを取るのにどれだけ大変か分かりました。そして帰ってお母さんに聞くと、「機械で刈ると、天日干しできなくて天日干しをした方があまくなるんよ。」と教えてもらいました。やはり、昔ながらの風習も大切にしていきたいと思いました。

栗田 煌斗



初めての稲刈り、「素手じゃないと感触がつかめん！」と途中で軍手をとって頑張る子どももいました！

田植えをしてちょうど150日です。私達がふだんお米は当たりだけど、前農業する人はとっても大変だと思いました。米一つ一つを大切にしてお給食を作ってくれた人に感謝をして「いただきます。ごちそうさま。と言う一声が大切だよ。」と教えて下さいました。だから何でも感謝をこめて「ありがたい。」という気持ちで食べたいです。最後までできなくて残念でした。お母さんとお父さんに伝えたいです。

高松夏帆

今日の5、6時間目に私の中で、初めてのイネかりがありました。

最初は、切れにくくて「わぁ、むずかしいな。」と思ったけれど、切っていくうちに、だんだん上手に出来るようになりました。これも地いきの方々が、やさしく教えて下さったからだだと思います。だから、私は最後まで感謝の気持ちをわすれずにイネかりをしました。

米作りは、こんなにも大変なんだなぁと改めて思いました。

村上友梨

今日の5、6時間目にいねかりがありました。最初はかたくてなかなか切れませんでしたが、なれてくるとすぐにきれて二つ同時に切れました。

次に、一組がきったいねをわらでたばねました。たばねるのは少しむずかしかったけれど、なれるとスバツとできるようになりました。よい体験でした。

鳴本希歩



稲刈りをしていると、「あんなに小さな籾だったのに、こんな一杯の米が生ってる・・・。」とつぶやいている子がいました。すぐ近くにいた地域の方が「一粒の籾から100粒の米がとれるんよ。」と教えて下さいました。

150日でこんなに多くの実をつける、植物の生命力を実感しました。

今日の5、6時間の総合で、やっといねをかりました。イネを植えて150日間が経ちました。イネをかるものは、かまでやりました。なぜなら地いきの人たちが、昔はこうやっていたんだよと教えるためのものでした。

そして私は、昨日決めた目標「感謝の気持ちを持ちながら、イネかりを楽しむ」の目標が、今日守れたようでした。なぜなら、最後の時、みんなで「ありがとうございました。」と感謝の気持ちを持った上で言ったからです。だから、家でも作っている米を大切に食べたいです。

平川心結

今日、5、6時間目に稲刈りの学習がありました。ぼくたちは手作業で稲刈りをしました。かまの手作業はかん単だったけど、ひもでの手作業はむずかしかったです。だから、いつもおいしくごはんを食べていきたいです。

川崎陸斗



稲刈りの合間に、カマキリやカエルを見つけました。生き物大好き！笑顔がすてきです。

今日の5、6時間目に地域の方といねかりをさせていただきました。

私は、主にけい語を使い、感しゃの気持ちに気をつけました。私達が毎日口にしているご飯、ただ「おいしい。」と言って食べるだけでしたが、もみまき、田植えから150日体験してみて、とても大変でした。感謝の気持ちで食べたいです。

後藤 陽花

今日、5、6時間目にいねかりがありました。

6月15日になえをうえて150日たった今日、ひさびさに見ると、小さかったなえがとても大きく立派に育っていたのでびっくりしました。

私は、今日のいねかりで地域の方に「ありがとうございました」と伝えることができよかったです。

三島 百々愛

#### — 学級通信の先生のコメントより抜粋 —

初めて稲刈りする子も多く、地域の方が根気強く指導してくださり、だんだん上手になりました。

「稲刈りって大変」と今更ながら、お米を食べられる状態までにすることがどんなに手間がかかるのかを身にしみて感じたようでした。

子ども達が経験したのは、田植えと稲刈りだけでしたが、毎日食べているお米がこんなに手間をかけて作られていることを知り、食べ物大切さを痛感したようでした。

稲刈りでは、一緒にほ場に入り間近で子ども達を見ていましたが、子ども達は黙々と作業をしていて、こんなにいろんな事を考えていたとは思いませんでした。

食べ物を大切に思う気持ちやお世話になった地域の方々へ感謝の気持ち、家庭で農業体験について家族と話した様子も書かれていて、この農業体験を通じて、子ども達の「考える力」や「思いやる力」が深まったのではないかと思います。今度は、収穫した米を食べて笑顔でいっぱいの子も達を取材したいと思います。

水土里ネット福山では、これからも農業体験を通じて子ども達の眼差しを届けたいと思います。